

「つまり」を用いた語句の言い換えに見られる名詞の特徴—〈換言〉の働きとはなにか

いぬい のりこ (神戸女学院大学大学院生) [▽]

1. はじめに

日本語には、「つまり」「すなわち」「要するに」「言い換えれば」といった接続表現がある。これは、すでに述べている、あるいは示唆している表現を改めて提示する際に用いられる。また、そういった表現を示し直すという言語行為は、〈換言〉と呼ばれ、一般には、「ある言葉や表現を、別のものに言い換えること」と説明される。

この〈換言〉という現象は、すでに述べた内容の要約や結論を述べる時にも一様に〈換言〉と呼ばれ、書き言葉でも話し言葉でも広く活用されており、自然言語学や接続詞という視座からの研究は多く存在する。しかし、何をどのように言い換えているのか、言い換えられる表現と言い換えられた表現の間にはどのような関係性があるのか、また、それによってどのような働きが見られることを〈換言〉と呼ぶのかは明らかになっていない。

そこで本発表では、〈換言〉を示す際に最もよく用いられる「つまり」を例に、〈換言〉とは、何をどのように言い換えることであるのか、その関係性がどのような働きを示すのかという2つの側面から考察を試みる。

2. 先行研究と問題の所在

石黒 (2001) は、換言の用法に着目し、前接する表現である前件と後接する表現である後件を、形態的に、そして意味的に分析し、「すなわち」「要するに」と比較している。

具体的には、石黒 (2001) は、調査対象となる「CD—毎日新聞データ集 1998年度版」中の用例に対して、語句、節、文・段落といった接続単位、あるいは転出用法、繫辞用法に分類し、出現しやすい形態を接続語ごとに示している¹。その結果、「すなわち」より「つまり」の方が文以上の大きい単位のを結び付けやすいと主張している。

また、石黒 (2001) は、「つまり」「すなわち」「要するに」の前件と後件を考察した結果、換言の目的は「受け手の理解に対する送り手の配慮から生じる」とされる「理解上の要請」と、「文章の流れを円滑にするため」の「文脈上の要請」の2つの側面を持つと主張してい

[▽] inui_noriko@yahoo.co.jp

¹ 転出用法とは、(i) のように、前項で「話」「こと」「事件」のような内容名詞を含み、後項でその具体的な内容を表す言い換えを指す。そして、繫辞用法は、(ii) のように前項と後項が主語と述語の関係にあり、それぞれを主語と述語として結ぶ言い換えを指す。

(i) 十年前、この日を「終戦」と呼ぶ理由として、次のような話を聞いた。【すなわち】、第二次世界大戦が終わった際、将来、決して戦争を行わないことを日本は誓った。よって、昭和二十年八月十五日をもって、日本が戦争を行うことは永久にない。そこで、この日を「終戦記念日」と呼ぶのだ、と。

(石黒 2001:36)

(ii) サンリオに代表されるキャラクター商品といえば、女子供向け商品の代名詞のような存在である。「女子供向け」「すなわち」「下らない」という図式は、書き手が女である場合も含めて完全な常識と化している。(石黒 2001:36) これらはともに「すなわち」に見られることが多いため、本稿では詳しく取り扱わない。

る。さらに、石黒（2001）は、この主張を踏まえて「つまり」が送り手の解釈を加えた、受け手が理解しやすいと予想される表現に言い換えるものであることも主張している。

石黒（2001）によって、〈換言〉を表す接続詞が体系化されたこと、接続詞によって使用しやすい接続単位の分布が明らかになったことは非常に有意義である。しかし、実際には、受け手の理解を深めようという送り手の配慮によって換言されていると説明することは難しいのではないだろうか。

例えば、（1）のような実例がある。「外国語が日本語化したもの」という表現は、受け手の理解を深めるための送り手の配慮が「外来語」という表現に見られると断言することはできない。「外来語」が持つ意味を、「外来語」という言葉を使わずに説明した表現で言い換えることで、結果的に2度繰り返したことに強調しようとした可能性も見えてくる。

（1）ホテルはいうまでもなく外来語、つまり、外国語が日本語化したものといえますね。
(BCCWJ、OT02_00019)

本発表では、「送り手の配慮」の有無を問わず、「つまり」が何をどのように言い換えるのか、「つまり」の前にある表現と「つまり」の後にある表現との関係性によってどのような働きが表れるのか、名詞を例に考察し、〈換言〉と呼ばれる言語現象の機能を考察する。

3. 調査対象と調査方法

調査対象の抽出には、コーパスとしてBCCWJを使用し、複合名詞を単語として抽出するために「中納言」の長単位検索を用いた。調査対象は、長単位検索によって抽出した、「つまり」を使用して言い換えられている名詞である。検索の際のキー条件は「語彙素：詰まり、品詞：副詞」で、前方共起条件は、「キーから2語以内、品詞大分類一名詞」を選択した。前方共起条件を「キーから2語以内」にしたのは、（2）のように、「つまり」の直前に読点あるいは括弧がある名詞も対象に含むためである。

（2）もっと言ってしまえば、老女はお涼の母親、つまり千恋の祖母なのだ。
(BCCWJ、PM41_00518)

加えて、検索動作に「文境界をまたがない」を指定した。その理由は、（3）のように「つまり」の直前で句点やスペースによって、前文が完結している場合の用例を抽出しないためである。

（3）ヨーロッパ全体は五百五十五億ドル。つまり中国が一位になったのです。
(BCCWJ、LBp3_00036)

さらに、目視で（4）のように前項と後項が主述の関係になっており、後項が前項に対して直接的に換言の役割のみを担っているとはいえないもの、（5）のように後項が名詞ではないものは取り除いた。

(4) 水着のことはつまり、その後のすべてに続く助走ではあったわけだ。

(BCCWJ、LBk9_00150)

(5) それは、放すこと、つまり、息を吐き始めるとき肩で自己を放すのである。

(BCCWJ、PB31_00081)

以上の方法で得た調査対象を、まず、前項と後項の指示対象が同一であるか否かを区別し、前項と後項を名詞の種類、あるいは意味関係に基づいて、特徴を記述するという方法で調査を行った。

4. 前項と後項で指示対象が同一である場合

前項と後項の指示対象が同一である場合の言い換えは、(6) のようなものである。

(6) 甲斐の国とは、よくご存知のように甲州つまり山梨県のことです。

(BCCWJ、LBh2_00060)

(6) の「甲州」と「山梨県」はともに、日本の甲信越地方にあり、長野県に隣接する都道府県を指している。

このような前項と後項で指示対象が同一である言い換えの名詞部分を、固有名詞、数量名詞、普通名詞の3つに大別し、その特徴を考察した。その結果から得られた特徴を、4.1で固有名詞、4.2で数量名詞、4.3で普通名詞について述べる。

4. 1 固有名詞

固有名詞の言い換えは、(7) のような人名、(8) のような地名での使用が大半である。

(7) 織田信長には木下藤吉郎、つまり秀吉がいた。

(BCCWJ、OB2X_00312)

(8) 法道はもとは天竺、つまりインドの人で、初め霊鷲山で金剛摩尼の法を修行していた。

(BCCWJ、LBe2_00034)

(7)(8) から分かるように、原則として、前項も後項も固有名詞であるもの、言い換えれば、固有のものを指すのに、複数の名称を持つものが多い。その理由は、人名や地名が、当該人物が置かれている地位や当該地域を領有する政治団体といった時代状況に左右されるためだと考える。

また(7)(8) のいずれを見ても後項の方が、より一般的であろう。このように、固有名詞が示す指示対象を的確に想定しやすい方の名称が後項に来やすいと言える。

4. 2 数量名詞

数量名詞の言い換えは、単位の変換と、計算過程と解という2つの特徴がある。まず単位の変換は、(9) のような時間と(10) のような長さを表す単位で出現しやすい。

(9) 最大で八百分、つまり十三時間以上切符を発売できないこともあった。

(BCCWJ、PB42_00261)

(10) 1 ナノメートルは 0.001 ミクロン、つまり 100 万分の1 ミリです。

(BCCWJ、LBo5_00046)

時間の場合、(9)の前項のように単位に対して過度な数値が出ており、後項で1つ上の単位に繰り上げて言い換えることが多い。長さを表す単位では、(10)の後項のように、日本社会で一般的に使用される単位に言い換えられる。どちらをとっても、読み手として想定される日本語母語話者に馴染みのある単位に言い換えられていることは明らかである。

次に示すのは、(11)のような計算過程と解の言い換えである。(11)のように、前項に変化の過程や計算を示す表現が用いられるのが特徴である。

(11) 1 バイトのデータの組み合わせは 二の八乗、つまり “二五六通り” となる。

(BCCWJ、PM45_00119)

前項の計算表現があれば、読み手は自ずとその解を導くことはできるが、後項が示されなければ、読み手は理解のために、話題や文脈から一時的に離れて解を考えなければならぬ。言い換えれば、計算過程をその解に言い換えることは、計算過程を示しながらも読み手が話題や文脈から離れるのを防ぐことができる。

4. 3 普通名詞

普通名詞の言い換えでは、3つの特徴が見られた。まず1つ目は、専門用語のように、ある言葉が使用される場面に制約がかかりやすい言葉を、その場面に接する機会のない人々にも分かりやすい一般的だと思われる言葉に言い換えるものである。

(12) 日本はもっと、アメリカと バードンシェアリング、つまり 責任分担をしたほうがいいのです。

(BCCWJ、PB23_00008)

(12)を見ると、「バードンシェアリング」は国際政治の場面で使用されやすい言葉であって、国際政治に深い関わりがない者にとっては、「責任分担」の方が、馴染みがある。使用場面に制約がかかりやすい言葉の言い換えは、(12)のような外来語や和製英語と熟語での言い換えが目立つ。また、政治、経済、医学、芸術分野の場面で使用される言葉が多い。

外来語に関する言い換えは、(12)のようなカタカナ表記ではない場合もある。それが、国際的な活動の拠点や他国の組織を指す際に表れる、頭文字語との言い換えである。

(13) MDAOを通じて折衝をするわけでありますけれども、MDAOつまり相互防衛援助事務所といったらいいでしょうか、伊藤さん、そうですね。

(BCCWJ、OM12_00001)

このような頭文字語との言い換えが起きる理由は、(13)の「MDAO」が指す”Mutual Defence Assistance Office”のように、本来の名称の構造が複雑で長いためである。それに加えて、

正式な名称に対応する和名があるとしても、直訳した普通名詞の複合語であって、指示対象として特定しづらいということも一因だと考える。

漢語と和語の言い換えは、(14)の「景観」と「見た目」のように、書き言葉的な表現から話し言葉的な表現へと換わっていくのは、言葉の意味ではなく、書き言葉的な硬さを解すという印象に焦点が当てられているといえる。

(14) それまでの住宅公団団地のイメージを破るべく海外勢も含む人気建築家をずらりと並べ、景観、つまり、見た目を尊重した企画が功を奏した。

(BCCWJ、PB45_00062)

最後に、前項と後項のどちらか一方の表現が、他方の説明になっている言い換えがある。(15)は、前項が頭文字であることから、(13)のような言い換えと同様のものに思われる。しかし実際には、後項が「ヒト免疫不全ウイルス」や” Human Immunodeficiency Virus”という正式名称や和名ではない点で、(13)の言い換えとは異なっている。

(15) H I V、つまりエイズをひき起こすウイルスも、ここが問題なんですね。

(BCCWJ、LBh3_00123)

説明的内容が必ずしも前項、あるいは後項に示されるといった偏りは見られなかった。一方の名称が何を指し示すのかを説明する必要性の有無に拘らず使用されており、強調する役割も果たしている。

5. 前項と後項の指示対象が同一ではない場合

前項と後項の指示対象が同一ではない場合とは、(16)のように「文庫にあってハードカバーにないもの」が示すものが「解説」のみだと必ずしも言えない場合を指す。

(16) 文庫にあってハードカバーにないもの、つまり解説である。(BCCWJ、LBh9_00019)

名詞の種類に基づく分類は、指示対象が同一ではないため、行うことができない。よって、前項と後項の意味関係に基づいて分析する。5.1では「分類と属性の関係」、5.2では「原因と結果の関係」、5.3では「主観と客体の関係」についての考察を述べる。

5. 1 分類と属性の関係

分類と属性の関係にある言い換えとは、設定された任意のカテゴリとなる総称と、それに属するものとの言い換えるものである。細かく分けると、任意カテゴリの中で上位と下位の関係にあるものと、特徴や性質を部分的に共有しているものである。

まず、上位と下位の関係にあるということは、上位にあたる表現が、下位の表現を内包するということである。上位と下位の関係にある言い換えには、(17) (18)のようなものが挙げられる。

- (17) 谷中感応寺、湯島天満宮、目黒不動はギャンブルつまり富くじの許された寺社であり、そういう意味でも人が集まった。(BCCWJ、LBt2_00092)
- (18) 電話に利用の制限があっても、保健所、つまり行政機関の職員への電話は制限されない。(BCCWJ、LBo9_00131)

(17) の場合、「ギャンブル」というカテゴリーに対して、「富くじ」はその下位にあたる言葉である。下位にある表現に言い換えることで、指示する対象の持つ領域、指示領域を狭めているといえる。他方、(18) を見ると、「行政機関」というカテゴリーに対して、「保健所」はその下位にあたる。「保健所」を基準に考えると、その上位にあたる「行政機関」に言い換えることで、指示領域を拡げているといえる。

(17) (18) から分かるように、上位語が前項、下位語が後項、あるいはその逆に固定されるといった規則性は見られない。大切なのは、上位と下位の関係にある言い換えは、指示する対象が異なりながらも、一方の対象が持つ指示領域が、他方の指示領域に内包されているということである。このことから、言い換えることで指示領域を拡大したり、縮小したりすることができる言い換えであるといえる。

次は、任意のカテゴリーの中で性質や特徴を部分的に共有している言い換えである。例として (19) (20) を挙げる。

- (19) 栄養素をバランスよく摂取するには、毎日の食事、つまり食品から取るのがもっとも望ましい方法です。(BCCWJ、PB44_00067)
- (20) 長野新幹線、つまり北陸新幹線も金沢までは、必ず延びる。(BCCWJ、PB26_00011)

(19) を見ると、「食事」というカテゴリーが設定されており、それを構成するものとして「食品」が挙げられている。先述の上位と下位の関係であれば、オムライスや野菜炒めといった具体的なメインメニューが浮かぶだろう。しかし、実際には、食事を形成する食べ物全般を指す「食品」という言葉が用いられている。(20) の場合は、「長野新幹線」と「北陸新幹線」は経路の一部を共有しており、「東海道新幹線」のような全く別の新幹線ではない。ゆえに、上位と下位の関係にはない。

(19) (20) に共通するのは、前項か後項の一方は、他方が指示する対象を構成するもので、前項が指示する対象が持つ指示領域と、後項が指示する対象が持つ指示領域が、包摂関係ではなく、一部重複している点である。この場合には、前項と後項が指示する対象が持つ指示領域を接近および重複させるかたちで、指示対象を移行していると考えられる。言い換えれば、前項と後項単独では重複していなかった部分、例えば (19) であれば食事に出される飲み物、(20) であれば、「北陸新幹線」であって「長野新幹線」ではない区間が、指示領域ではなくなるということである。

このような、任意のカテゴリーの中で性質や特徴を部分的に共有している言い換えの場合、性質や特徴を共有していれば、その数に制約はない。よって、任意のカテゴリーを示す表現の他方で、(21) のような読点や中黒、並列助詞「と」を用いて性質や特徴のすべて示される場合も、「や」「など」または「か」などを用いてその一部が示される場合もある。

- (21) “住民”という用語はここに住む全ての人々、つまりアフリカ人、アジア人、ヨーロッパ人を指すと理解されている。(BCCWJ、PB23_00087)

5. 2 原因と結果の関係

原因と結果の関係での言い換えには、(22) (22) のようなものがある。

- (22) 第4次中東戦争、つまり第1次石油ショックが起きてからアラブ寄りの外交をやってきた。(BCCWJ、LBg3_00098)
- (23) いきみをかけるのはあくまでも陣痛、つまり子宮収縮を補うのが目的です。(BCCWJ、PB15_00336)

(22) (23) を見ると、前項と後項は全くの別の事象であるが、因果関係があることによって一体化される言い換えである。(22) の場合、「第4次中東戦争による第1次オイルショック」であり、(23) は「子宮収縮による陣痛」とすると分かりやすい。

しかし、前項と後項が一体化されるということは、因果関係に着目する必要がなくなるということではない。むしろ、こういった言い換えは、因果関係が強いほど生じやすい。それは、原因を指す表現と結果を指す表現がそれぞれに独立していながらも、原因と結果は連動していて、相互関係にあるためである。実際に、(23) を見ると、必ずしも前項が原因を、後項が結果を示す必要はないことが分かる。(22) (23) いずれにおいても、言い換えることで、原因と結果が相互関係にあることを強調している。このことから、原因となる指示対象と結果となる指示対象の2つを統合する言い換えであると言える。

5. 3 主観と客体の関係

最後に、主観と客体の関係にある言い換えを挙げる。これは、ある事物や事象を、話し手や書き手の主観性を持って叙述するものである。例として (24) (25) を挙げる。

- (24) 中国の学問があつてはじめて、日本人としての才幹も役に立つのだと、太政大臣、つまり時の首相がいつているのです。(BCCWJ、OB4X_00085)
- (25) アフリカで私は、あらゆる光景のうちで最も孤独で不吉なもの、つまり戦場を目にした。(BCCWJ、LBo2_00070)

(24) の場合、「太政大臣」は一般に「首相」と呼ばれることはなく、示される役割が厳密には異なる。しかし、同等の役割を果たしているという面では類似性がある。これを関係の面で捉えると、客体「太政大臣」に対して、「時の首相」は書き手の主観的な表現であると言える。(25) を見ると、一般に「戦場」と「あらゆる光景のうちで最も孤独で不吉なもの」は結び付かない。「あらゆる光景のうちで最も孤独で不吉なもの」は、文中の「私」にとっての「戦場」であって、客体である「戦場」に対して主観的であると言える。

このような言い換えは、ある事物や事象に対する書き手の主観に基づいた印象を押し付けようとするのではなく、あえて言い換えることで文章全体や文脈において、その事物や事象を象徴付けることができる。さらに、話し手や書き手にとってのオリジナルな表現の

追求にもつなげることができるのである。

6. まとめ

本発表では、前項と後項で指示する対象が同一か否かという区分から、「つまり」を用いて言い換えられる名詞と言い換える名詞の関係を分析し、その特徴を考察した。

4節では、前項と後項の指示する対象が同一である場合、名詞の種類によって言い換えることで生じる特徴は異なるものの、用いられている名称や表現が置き換えられるという点が共通した働きであることが明らかになった。

5節では、前項と後項の指示する対象が同一でない場合には、言い換えることで、指示する対象が持つ指示領域を調整する、指示対象を移行する、2つの指示対象を統合する、主観的な叙述によって指示対象が象徴的になるなど、様々な働き方をすることが分かった。

総じて、「つまり」を用いた名詞語句どうしの〈換言〉は、前項と後項の指示対象が同一であれば言語情報の置換が起き、同一でない場合には、指示対象及びその領域を調整、あるいは変更するという働きを持っていると言える。

今後は、「つまり」を用いた名詞語句どうしの〈換言〉の前項と後項の指示対象が同一であるかを基準に、同一である場合の名詞の特徴、同一でない場合の前項と後項の関係性に関する特徴を引き続き、捉えていく。また、調査対象を前項と後項が名詞語句であるものだけでなく、名詞修飾節にも拡大して、前項と後項の関係性に加え、文法的特徴の有無についても分析を行っていく。

参考文献

- 石黒圭 (2001) 「換言を表す接続語について—「すなわち」「つまり」「要するに」を中心に—」『日本語教育』110、pp. 32-41、(社) 日本語教育学会
- 石黒圭 (2008) 『文章は接続詞で決まる』光文社
- 蒲谷宏 (1982) 「『言い換え』に関する基礎的考察——『換言論』の提唱——」『国語学研究与資料』6、pp. 70-78、早稲田大学
- 蒲谷宏 (1985) 「文章内における言い換えについて——接続語句による言い換えを中心に——」『国文学研究』85、pp. 92-101、早稲田大学
- 金水敏 (1986) 「名詞の指示について」『築島裕博士還暦記念 国語学論集』pp. 467-490、明治書院
- 小林幸江 (1996) 「「同格」をめぐって」『留学生日本語教育センター論集』22、pp. 1-13、東京外国語大学
- 日本語記述文法研究会編 (2008) 『現代日本語文法1』くろしお出版
- 西山佑司 (2003) 『日本語の名詞句と意味論と語用論』、ひつじ書房
- 西山佑司 (2013) 『名詞句の世界—その意味と解釈の神秘に迫る』、ひつじ研究叢書(言語編)112、ひつじ書房
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法 改訂版』くろしお出版
- 眞野美穂 (2016) 「日本語同格名詞句についての一考察——固有名詞が含まれる場合——」『名詞句の文法』、福田嘉一郎・建石始(編) pp. 21-40、くろしお出版
- 森田良行 (1977) 『基礎日本語 意味と使い方』、pp. 305-306、角川書店